NIE実践報告

1．タイトル：**新聞を通して自分の考えを持ち、その考えを交流しあおう**

2．学校名

大津市立仰木小学校

3．実践者名（代表者名）

日下　優香

4．学年

小学校5･6年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語・社会･総合（51名）

6．単元（本時の学習課題）名

対話を通じて交流を深める

7．目標(狙い)

日常的に新聞に触れる機会を設け、新聞から得た情報をもとにした自分の考えを話題にすることでお互いの交流を深める。

8．評価の視点

対話を通じて自分の考えを友だちなどに伝えることで、考えを共有したり、意見が変わったり、交流を深めることができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

新聞を使った学習活動を組んでいく際、どの教科で、どんな狙いをもって進めていくのかが今ひとつ明確に出来なかった。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①新聞を活用した朝のスピーチ：毎朝、2人の当番が新聞を読んで、自分が興味を持った記事を選んで、それについて考えたことをクラスのみんなに伝える。
②ディベート風討論会：投稿記事を題材に、その考えに賛成か、反対か討論する。
③新聞記者の出前授業：これまで何気なくよんでいた新聞が、多くの人の手を経て、苦労して出来上がっていることを知り、さらに新聞への関心を高めた。
④歴史新聞作り：歴史学習のさまざまな場面で、自分の考えを入れることに留意した「歴史新聞」を作った。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

- **子どもたちが気負うことなく、新聞に向かうようになった。朝必ず、新聞に目を通してから登校する子どももいた。**
- **自分の考えをしっかり持ち、さまざまな立場から物事を考える子どもが増えた。**

12．成果と課題

- **国語辞典を常に手元に置き、辞書を引く習慣ずけを図ってきたが、新聞を読むことでさらに効果が高まった。記事の内容を理解するために辞書を引いており、1年間の継続で語彙も増え、文章の理解力も向上した。**
- **常に新聞が身近にある環境を作っていくためには、家庭への啓蒙や、学校での取り組みの紹介などをより積極的に進めていく必要性を痛感した。**